

ファナック株式会社
2025 年度 決算説明会(電話会議) 質疑応答要旨
(2026 年 4 月 24 日開催)

Q. フィジカル AI 関連の受注状況のアップデートを教えてください。また、導入が進む顧客属性（業種・地域）に特徴はありますか。

A. Q3 で説明した「さらに数千台規模の商談あり」は順次注文に至っている一方、フィジカル AI 以外の要因も含めて注文につながっている面があり、当社としてフィジカル AI 分を切り分けて台数をカウントはしていません。ただし、当初想定以上の注文を頂いており、その一部はフィジカル AI が評価された結果と見えています。引き合いは国内外で増えており、国際ロボット展を契機に具体的な商談・課題意識を伴う相談や、アイデア段階の相談も増えています。導入には一定の知識・準備が必要な面があるため、現状は比較的大手顧客で大口受注につながりやすい一方、中小規模企業向けには Sier と連携し、導入の敷居を下げるパッケージ等の取り組みを始めています。

Q. ロボットの受注環境は継続的に拡大していますか。増加の背景と、中東情勢の影響、フィジカル AI の進捗も教えてください。

A. 米国では、EV 一辺倒からハイブリッド・ICE も含めた投資に動き始めたことなどを背景に増加しています。中国では NEV が引き続き強いほか、自動車以外の一般産業向け需要も増えており、比較的堅調に推移すると見えています。

中東情勢は、投資見合わせの話が一部にあるものの、現時点では影響は限定的との認識です。フィジカル AI については、国際ロボット展以降、国内外で引き合いが増えており、従来の技術では難しかった自動化の可能性が評価され、商談件数が増えている実感があります。中小規模の企業向けには、アプリケーションやパッケージ、技術支援等で使いやすさを高め、導入を後押ししていきます。

Q. 米国市場の先行きを教えてください。

A. 米国は自動車・自動車部品も一定のウエイトがありますが、それ以外の一般産業向けも強く、金利面で中小企業では慎重さがある一方、製造業回帰の動きもあり、堅調な需要が続くことを期待しています。データセンタ関連のロボットの引き合いも一部あります。

Q. 2026 年度の業績予想が 4Q 受注の 4 倍より低い数字になっています。中東情勢、為替、関税などのリスクをどのようにガイダンスへ反映させていますか？

A. 4Q 受注には納期が少し先のオーダーが含まれていますので、単純に 4 倍にはならないとの予想を前提にしています。

中東情勢の受注への影響は現時点では見られませんが、不透明さを踏まえつつ、各セールス部門のフォーキャストを集計して見通しに反映しています。加えて、石油由来製品などの調達リスクや部材コスト上昇等、現時点で見通せる範囲で予想に織り込んでいます。関税は先行きが不透明なため、現状かかっているものは継続することで損益に見込んでいます。

Q. 中国での「先納期」増の背景と、CNC のシェア見通しについて教えてください。

A. 工作機械への投資が盛んで、AI 半導体、AI データセンタ関連、ヒューマノイドロボット関連の部品加工、医療、NEV 等で工作機械の需要が高まる中、増産基調が強まっており、CNC を早めに発注する動きが 4Q 受注を押し上げたと見ています。ただし、今後どのように推移するかは予想が難しいところです。

中国には多様なメーカーがあり、当社がカバーしない非常に安価な CNC もあるため把握には限界があるものの、当社の基準にもとづいて把握している範囲では、シェアは維持していると考えています。

Q. 中東情勢に伴うサプライチェーン課題の具体像と対策、また今期計画の需要前提（FA・ロボット・ロボマシン）を教えてください。

A. 報道されているのと同様に不足が生じ得る物資があり、使用量の削減や代替品の調達を進めています。サプライヤと密に連携し、サプライヤ側の状況も注視しつつ、部品・材料の不足懸念は早めに相談してもらするなど、サプライチェーン全体で対応しています。監督官庁とも情報共有し、必要に応じ報告しながら調達確保に取り組んでいます。潤滑油、シンナー、塗料等についても、海外関係会社経由での海外調達等も含め、会社の総力を挙げて調達に努めています。

需要前提としては、4Q 受注ペースがそのまま続くことまでは見えていませんが、総じて各商品とも需要環境は堅調であり、ある程度のオーダは当面続く前提で受注・売上見通しを立てています。

Q. 自己株買いについて、昨年 4 月に発表した取得枠 500 億円が進まなかった背景と、今回発表した取得枠 500 億円のメッセージを教えてください。

A. 前年に自己株取得枠を設定し進めてきたものの、株価が堅調に推移したこと等により、取得が一部にとどまりました。現金水準が高いことは認識しており、成長投資を優先しつつも現金を減らし資本効率を高める必要があるため、改めて枠を設定したものです。実際の取得にあたっては、機関投資家からの要望も踏まえ、株価水準を考慮しながら行っています。

Q. ロボマシンの 4Q 受注が 438 億円と高水準ですが、背景は何ですか。また、スマートフォン関連の需要は出ていますか。

A. ロボマシンではロボショットとロボドリルの寄与が大きく、ロボショットは IT 関連、レンズ・コネクタ等の精密成形向けで強い引き合いが継続しています。ロボドリルも IT 関連に加え、AI 半導体・AI データサーバ関連の部品加工用途などで堅調な注文をいただいております。受注・売上増につながっています。スマートフォン関連の需要も一部出てきております。これがどの程度続くかは予想が難しいですが、根強い需要感があり、しばらく続くことを想定しています。

以上

本資料に含まれている将来に関する見通しには、市場における製品の需給動向、競合状況、経済情勢その他に不透明な面があり、実際と異なる可能性があることをご承知おき願います。